

呂怡屏

1. 事業実施の目的

本調査では世界の先住民運動で先導的な役割を果たしてきたカナダを取り上げ、カナダ各地の博物館の先住民展示の様子と、博物館と先住民およびソースコミュニティの関係、および先住民が博物館の収蔵品を活用するかたちを調査する。

2. 実施場所

カナダにおける Museum of Anthropology、Museum of Vancouver、U'mista Cultural Centre、Royal BC Museum、Canadian Museum of History、Royal Ontario Museum

3. 実施期日 平成 27 年 11 月 13 日 から 12 月 14 日

4. 成果報告

●事業の概要

今回の調査では、まず、ブリティッシュ・コロンビア州にある Museum of Anthropology (人類学博物館、MOA) を訪れた。同館の主な展示品はブリティッシュ・コロンビア州の先住民に関する伝統工芸と儀式用具である。常設展示は 2 つのセクションに分けられる。1 つは正面入り口の両側に広がる大展示室である。ここではトーテムポールと大型木彫を展示の中心として、伝統行事と工芸品の様式や意匠を伝えている。もう 1 つは「Multiversity Galleries」(多様性ギャラリー) である。ここでは展示ケースと引き出しが設置され、カナダ先住民の物質文化と世界各地の民族の文化を探ることができる。また、博物館とソースコミュニティとのいくつかの連携事例も展示を通じて語られている。

同じくブリティッシュ・コロンビア州にある Museum of Vancouver (バンクーバー博物館、MOV) の常設展示の内容はバンクーバー市の開発の歴史、1940～1960 年代の第二次世界大戦から戦後にかけてのバンクーバー市の住民たちの生活および日系人の移住の歴史である。報告者が訪れたときには、特別展示「The city before the city」が開かれていた。この展示は、Musqueam という民族集団について、伝統文化と現代との繋がりを通じて、彼らが進めている伝統墓地の保護に関する動きを紹介していた。

次にカナダ北西海岸の Cormorant 島にある U'mista Cultural Centre を訪れた。この施設が創設されたきっかけはポトラッチ (potlatch) に関するモノの返還であった。この施設では、1985 年設立以来、ポトラッチに関するモノを展示するだけでなく、モノの元の所蔵者である家族がポトラッチをおこなう際に、モノをその家族に貸し出している。この儀式

をおこなう家族にとって、ポトラッチに関する古い収蔵品が実際に使用可能かどうかより、モノに含まれる象徴的意義が重要とされていると思われる。現在、U'mista Cultural Centre は、博物館の役割を果たしているとともに、言語や工芸などの文化伝承の活動をおこなう場所となっている。

バンクーバー島の南にある Royal British Columbia Museum (RBCM) の先住民展示場は 1977 年に設けられたものである。展示の内容は 2 つに大別される。1 つは時間軸に沿って、「考古学資料」、「伝統生業」、「Nisga'a – Nass 川沿いに生活している民族」などのテーマで、ヨーロッパ人が大勢移住してくる前と、ヨーロッパ人と頻繁に接触した後の生活変遷、および現代の先住民の生活の様子を示す。もう 1 つの展示のテーマは、「継承される伝統芸術」と「トーテムポール」で、北西海岸の各先住民の芸術を地域ごとに紹介している。博物館と先住民の協働に関して言えば、展示場にあるビッグハウスは、先住民と連携のうえ、博物館に再建されたものである。

オタワにある Canadian Museum of History におけるカナダ先住民の展示は 3 つの展示場に分かれている。まずは北西海岸先住民文化を展示するグランドホールである。続いて、先住民が自分の文化を紹介し、彼らの由来に関する神話を語り、「生きている歴史」を強調する展示である。最後は時間軸に沿って、ヨーロッパ人に出会う前の生活様式とヨーロッパ人に出会った以後の文化や生活変遷を示す。同館の展示構成における共通の概念は、人と土地の繋がりおよび伝統文化の変遷と継続である。

Royal Ontario Museum (ROM) はトロントにある総合的な博物館である。世界各地の文化、カナダの先住民、恐竜、鉱物、生物の多様性などの展示だけでなく、展示場に子どもに対するクイズやハンズオンなどの様々な装置も設置してある。カナダ先住民に関する展示構成については、歴史的なアプローチに従って、収集者と先住民との関係を取り上げ、展示内容を企画している。企画チームに館内のアメリカ先住民研究者と 6 名のカナダ先住民コンサルタントが参加した。2006 年にリニューアルされた展示を通じて、先住民の過去のイメージにとどまることなく、現代社会の先住民の生活と苦境を紹介している。

ROM には台湾の平埔族に関する展示があり、2008 年に開室した「Shreyas and Mina Ajmera Gallery of Africa, the Americas and Asia-Pacific」の一部分を構成している。ここでは 19 世紀末から何人かの収集者が世界各地で収集したコレクションを展示し、それらの歴史的な脈を示している。台湾に関するものは 19 世紀末に宣教師の Dr. George Leslie MacKay が収集し、そのあと ROM に寄贈したものである。同室をほかの地域の展示と比べると、Dr. MacKay の台湾の収蔵品の展示においては、伝統的なものと現代のものが並列されることで、文化の継続と変遷、台湾の原住民運動の状況が示されている。

なお、今回訪れた各博物館では、キュレーターにカナダの先住民、とくに北西海岸の先住民の工芸品にむかしから使われている模様の活用と使用権利について聞き取り調査をおこなった。

●本事業の実施によって得られた成果

1. 今回調査したカナダにおける 6 つの博物館の先住民展示の特徴を把握した。6 つの展示はそれぞれの枠組みを用いてカナダ先住民の生活を示している。たとえば、MOA は工芸的なアプローチを用い、MOV は先住民に関わる現代的課題を特別展示で反映し、RBCM は生業と工芸のアプローチを用い、U'mista Cultural Centre は儀式の文脈を強調し、Canadian Museum of History は先住民の声を反映することに取り組み、ROM は収蔵当時の収集者と先住民の相互関係に着目している。ただ、その中に共通の関心が認められた。それは、カナダの先住民が伝統的生活・行事を続けてきたとき、ヨーロッパ人が多数を占めている社会に直面することでおこる様々な難題である。各博物館は、展示物、説明パネル、ビデオ、マルチメディア装置などの媒体を通じて、関連する問題を提起している。
2. 博物館とソースコミュニティとの連携のあり方を把握した。聞き取り調査によってわかったことは、調査対象とする 6 つの博物館のキュレーターが、先住民とパートナーシップを築こうという認識に基づいて、収蔵品に関する研究、展示内容の検討、教育活動に力を入れていることである。例えば、資料のソースコミュニティへの返還や、ソースコミュニティの人たちが博物館へ行って、自分と関連する収蔵品を熟覧することで、伝統工芸や儀式の再興を促進することができたという。このように、カナダの博物館は先住民たちの歴史と自己認識を築くことに積極的に役立とうとしている。
3. ソースコミュニティによる博物館の収蔵資料の活用状況を把握した。国際民族学博物館委員会 (ICOEM) は 1992 年に「Turning the Page」という提言書を作成した。その中では、収蔵品の重要性和アクセシビリティ、博物館とソースコミュニティとのパートナーシップの構築ということが強調された。それを踏まえて、博物館とソースコミュニティとの連携事業も積極的に展開されてきている。博物館の収蔵資料へのアクセスについて、先住民と芸術家の収蔵資料熟覧に関する申し込みが増えてきたという。なお、一般人が博物館に申請書を出すことで、収蔵資料を見ることができるようになった。博物館も先住民を対象にしたインターン制度を設けた。それらを通じて、博物館の収蔵資料の活用が盛んになった。さらに、博物館のキュレーターとソースコミュニティの間での互恵的な研究や方法も探り続けている。
4. カナダ先住民、とくに北西海岸の先住民の工芸品にむかしから使われている模様の活用と使用権利について、今回訪れた博物館のキュレーターに聞き取り調査をおこなった。キュレーターたちの答えをまとめると、2 つの仕組みがある。それらは、各民族は伝統的な模様の由来を概ね知っており、模様を活用する際に自ら所属する民族のものを使うこと。そして、模様に関する明確な由来が記録されていない場合、関連すると思われる各民族が互いに交渉して使用権利を決めることである。博物館は収蔵資料を活用するための様々なアクセスの手段を提供する。ただ、模様の使用権利に関わる争議が生じた場合、各民族の代表が議論して出した結果で判断することになる。

この度の調査により、これからの博士論文の執筆にあたっての比較の資料を得られた。その成果は、学内外での研究発表や論文の形で公開する予定である。

●本事業について

文化科学研究科学生派遣事業により、カナダにおける博物館人類学に関する学術研究機関とソースコミュニティの調査を行ううえで、必要な資金の提供を受けた。今回の調査で各博物館の展示を観察して記録するとともに、聞き取り調査もおこなった。これにより、博士論文執筆のための比較データを入手することができ、とても有益であった。